

今年もよろしく お願い申しあげます！！

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、谷口前理事長から任を引き継ぎ、ぱれっとの組織改革に取り組んでまいりました。新たなチャレンジに沸々とエネルギーが湧いてくる一方で、事業を見直す際には、勇気と決断が要ります。組織にとって何がベストなのか、トップとしての経営の責任が問われました。

22年間ソーシャルビジネス (SB) として築き上げてきたレストラン事業の見直しは、ぱれっとにとっても大きな決断でした。今後、この経験を生かした新たな SB の

展開をぱれっと全スタッフと模索していきます。

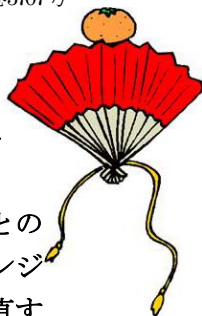
また、おかし屋ぱれっとの自立支援法下への移行 (平成 25 年 4 月就労継続支援 B 型移行) も大きな変革でした。商品開発や売上向上の理念は失わず、通所員の自立に向けた個別支援の充実を図っていきます。

障害者権利条約の批准に向け、日本の福祉制度が大きく変わる中、障害そのものの捉え方や支援のあり方も変わりました。障害がある人を中心に、その選択肢を増やすべく当たり前の社会の実現に向け 30 年間事業を展開してきたぱれっとですが、ようやく制度が追いついてきた感があります。

世代交代をした今、ぱれっとの新たな中期計画策定に向け、理事やボランティア・利用者の父母も交えた勉強会を行なっています。益々スタッフの質が問われてきます。今年は積極的に学びの年としたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人ぱれっと理事長 相馬宏昭

理事長挨拶



ぱれっと事務局

ぱれっとのスタッフが現場で仕事をする際の意識として大事にしてきた「100通りのニーズに100通りのサービスを」。障害者を取り巻く環境で、実践に向けた取り組みとして動き出そうとしています。誰もが安心して自分の人生を歩める社会が実現できるかどうかは、本人、家族、福祉現場、行政、ボランティア、地域など、様々な人達が連携し、真剣に議論し、個々の思いを乗せることで、今後の方向性が定まっていくのだと思います。ぱれっとも今年は正念場。これまでの経験と知恵相手を思いやる気持ちを大切に取り組んでまいります。

菅原睦子



たまり場ぱれっと

2012年のたまり場ぱれっとは、障害の有無に関わらず、本人の「やりたい」と思う気持ちを大事にして皆でそれを協力できるような、そんな場を作る基盤作りに取り組みました。その一つが、障害者自身が主体となって様々な企画を行なっていく「絆ミーティング」です。2013年のたまり場ぱれっとも、より多くの人達が生き生きと活躍でき、自己実現していけるような場を皆でつくっていきます。2013年もたくさんの方にチャレンジしていこうと思いますので、応援よろしくお願い致します！

左右木 歩





新年のご挨拶を申し上げます。昨年末は大変忙しく、企業販売を行ないつつ、大口注文の製造に追われながら、毎日70kgのクッキー生産を続け、通所員にも発破をかけながら注文を断らず売上UPに努力しました。今年4月からの就労継続支援B型移行に伴い、新規通所員を受け入れるべく特別支援学校からの実習生を受け入れてきています。定員20名に規模を拡大することと渋谷区外からも受け入れが可能となり、就労希望者も増えています。重度の障害にも対応できるよう、忙しい中スタッフも研修に出向きました。おかし屋ぱれっとは、あくまで「働く場である」ことを見失わず、本人を尊重した意思決定支援を行なっています。 所長 相馬宏昭



2年間株式会社ぱれっとの店舗として、皆様にご愛顧頂きました「スリランカ料理&BEER Palette」は、すでにお知らせしている通り、昨年12月をもって事業を終了いたしました(関連記事16-17ページ)。今後は、NPO法人ぱれっとが主体となり、株式会社が取り組んできたソーシャルビジネスの理念を再構築し、関係者全員で議論を重ねる中で新たな取り組みの形を模索していきます。ぱれっとの精神は「社会変革」と「新たな価値の創造」。私たちならではのユニークな事業を続けていく予定です。改めて学び、外部の方々とも連携しながら新たな挑戦を模索する「再チャレンジ元年」です。 南山達郎



おめでとうございます。昨年は、谷口さんから相馬さんに理事長のバトンが渡され、新しいぱれっとが動き始めました。今年、おかし屋ぱれっとの事業移行など組織的にも大きな改変の年となります。相馬さん傘下、スタッフ、保護者、会員のみなさまとぱれっとの理念を共有し磨き合う中で形づくって行きます。えびす・ぱれっとホームも体制が変わります。料理ボランティア、代替アルバイト、保護者、町会の皆さまに支えられながら、行政、区内の福祉団体の皆さまと連携してがんばっていきたくと思います。本年もよろしく願いいたします。 施設長 三森紀子

施設長 三森紀子



おめでとうございます。昨年は、ラオス、ミャンマー、セントルシア、イランなど多くの外国から見学者が訪問されました。これから大きく変わろうとしているミャンマーでは、「現在障害児教育に取り組んでいるところですが、成長した彼らの就労の場づくりはとても重要です」と語っていたのが印象的でした。「社会変革」は時間がかかり簡単なことではありません。今年、インドのニューデリーで、「アジア知的障害会議」が開かれます。分科会では、障害者自身が自分の言葉で発表します。自分の問題は自分で解決したいという訴えが社会変革につながるように、ぱれっとはしっかりと応援する一年でありたいと願っています。 谷口奈保子

